

慶應義塾図書館開館 100 年記念式典の運営

すぎやま よしこ
杉山 良子

(三田メディアセンター課長)

1. はじめに

2012 年 4 月 28 日土曜日、午後 2 時から三田キャンパス南校舎ホールで慶應義塾図書館開館 100 年記念式典が開催された。式次第は以下のとおりである。

1. 開式

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 慶應義塾図書館 100 年の歩み (スライド上映) | |
| 1. 式辞 慶應義塾図書館長 | 田村俊作 |
| 1. 祝辞 慶應義塾長 | 清家 篤 |
| 1. 祝辞 文部科学大臣 | 平野博文 |
| (代読 文部科学省研究振興局長 | 吉田大輔) |
| 1. 祝辞 一橋大学附属図書館長 | 江夏由樹 |
| 1. 祝辞 早稲田大学図書館長 | 飯島昇藏 |
| 1. 祝辞 慶應義塾学事顧問 | 鳥居泰彦 |
| 1. 閉式 | |

式典に引き続き、懇親会が催された。また式典開催にあわせて、図書館旧館の大会議室(元大閲覧室)が特別公開された。

ここでは、式典の準備から開催に至るまでの実務について報告する。

2. 式典準備

記念式典を行うことが最初に話題に上ったのは、9 月末頃だった。図書館竣工は 1912 年 4 月 15 日、開館式は 5 月 18 日に行われたという記録がある。そこで式典の日程は 4 月から 5 月の土曜日が良いと考え、準備期間を考慮して、4 月 28 日の午後に開催することにした。

開催場所は、前年竣工したばかりの南校舎ホール、さらに懇親会会場は同じ建物の 4 階にある食堂「ザ・カフェテリア」に決めた。この時点で懇親会会場の収容能力を考え、来場者数は 200 人から 250 人程度を想定した。そのため、招待者は三田の図書館に関わりが深い人のみに限定せざるをえず、内部では評議員会議長、三田キャンパスに在籍した文、経、法、商 4 学部の名誉教授と現役教授、図書館管轄の各種会議委員、三田の図書館で 4 年以上の勤務経験がある元職員および現在勤務している職員、部長級職員などに限った。

新館の開館披露式典の際には、他大学図書館関係者を招待したが、今回の式典は相互協力の協定校や図書館協会の役員校などにとどめた。

新図書館設計に携わった横総合計画事務所の横文彦氏からは祝辞をいただくことも検討したが、式典では聴衆が限られてしまうため、後日 7 月 6 日に三田演説会での講演を依頼することになった。このように、招待者の範囲を狭めたが、招待者リストにあがった人数は約 760 名にも上っていた。

招待者リストを準備する際、最も時間を要したのが退職した職員の名簿作成である。過去の教職員名簿からリストを作成、改姓等による重複を削除、最後に現住所を確認した。個人の人脈で確認できるケースもあったが、住所が判明しない人もかなりいた。個人情報保護という観点から、古い教職員名簿を手元で保存できなくなっている今、このような名簿作りはより困難になることが感じられた。

式典 2 ヶ月前に来賓、退職者約 300 名に対して招待状を郵送した。出欠確認用に葉書を同封したが、メール回答も可としたところ、メールでの回答も数多く寄せられた。在籍者には塾内便(学内便)で招待状を送付、主としてメールで出欠確認を行った。

この頃から、式典進行表の作成とともに、式典、懇親会、見学会場などの場所ごとに、担当者を入れたタイムスケジュール表を作成、準備から開始までの業務内容、動線などを確認している。

3. 記念品

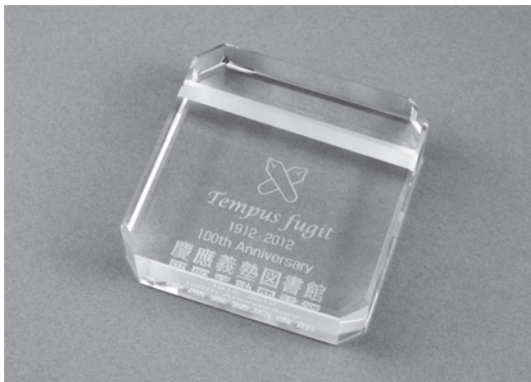
来場者への記念品として、当初「慶應義塾図書館史稿 1970-2012」を刊行し、配布する予定だった。さらに 1982 年の新図書館開館時には記念品としてガラス製のペン立てを配布したので、今回はガラス製のペーパーウェイト(カードスタンド)を作成することになった。

デザインを検討する際、図書館のシルエットを入れたかったが予算の関係で断念、文字だけのデザインにした。文字や字体、レイアウトに悩みながら、最終的には、ペンマーク、旧図書館の大時計の文字

盤に記されている“Tempus fugit”(時は過ぎゆく)の文字、そして「1912-2012 100th Anniversary 慶應義塾図書館」という文字を刻んだものとなった。製作に時間がかかり納期が危ぶまれたが、無事納品された。その後、スタッフが450個の箱に、コピー機で印刷した説明文を挿入していった。

さらに、高宮利行名誉教授からゲーテンベルク聖書特別展示に因んだ記念グッズ作成の提案があり、急速クリアファイルも作成することになった。デザインから納品まで極めて短期間で作業することになった。出来上がったクリアファイルは寄贈され、記念品の一つとして追加された。

式典後、透明なガラスに文字を刻んだため、ペーパーウェイトとして白い紙の上に置くと文字が見えなくなってしまうという指摘はあったが、3点セットの記念品は概ね好評を得た。



ガラス製ペーパーウェイト (カードスタンド)

4. 経費

必要経費については、平成23年度に学内の調整予算を獲得し、「慶應義塾図書館史稿」の印刷および記念品(ペーパーウェイト)の作成を行った。今年度の事業予算(経常費)で主として懇親会、その他式典に伴う諸々の費用を賄った。

式典に伴う経費としては、会場の看板作成と設置費用、花、招待状作成と郵送料、式次第印刷費、式典のテーブル起こし費用などであり、一般的なこの種のイベントと同じ程度で、それほど大きな出費にはならなかった。

ただ予定外の出費としては、ゲーテンベルク聖書の特別展示に際して、式典中にスタッフが不在になるため、警備員の委託警備費があった。

4. 懇親会

懇親会はティーパーティーにし、乾杯用に紅白ワインを購入、人数分のグラスワインを用意した。乾杯の挨拶は、新図書館建設着工当時に担当常任理事の大島通義名誉教授にお願いした。会場はかなり込み合ったものの、久しぶりに顔を合わせた旧知の仲間同士、あちらこちらで話に花を咲かせている姿が見られた。文科省や他大学の図書館関係者、その他の来賓の方たちも最後まで楽しまれていたようで、なごやかな雰囲気の1時間半だった。

5. 式典当日

当日は三田メディアセンター全職員に加え、メディアセンター本部職員にも協力依頼をした。担当業務としては司会進行、受付、クローク、来賓接待、音響、見学対応、場外・場内誘導などを行った。担当ごとにチーフを決めて事前打合せを行い、当日は式典1,2時間前からスタンバイした。事務局メンバーは通常勤務、朝から看板立て、記念品の搬入、会場で業者が立て看板、花を生けている横で、座席表を見ながらシートに指定席のビラを貼るなどの作業を行った。

なお写真撮影については、義塾カメラマンの石戸晋氏に依頼、式典のみならず、旧図書館見学や展示室の様相なども撮影してもらった。



式典風景

6. おわりに

当日の式典出席者は227名、懇親会のみ出席者を入れると230名になった。この記念式典が無事に終わり、多くの出席者から好評を得ることが出来たのは、多くのスタッフの労あってのことだと思う。

今回の経験を、式典に関わった若手スタッフが今後、活かすことができることを望みたい。